



はす祭り

7月9日(土)～8月7日(日)

園水郷佐原水生植物園 ☎(56)0411

■開催時間 8時～16時
(土・日曜日、祝日は6時開園)

早朝観蓮会

早起きして涼しい早朝のうちにハスを見ませんか？

■日時 はす祭り期間中の土・日曜日、祝日 6時～

象鼻杯・はす茶のもてなし

早朝観蓮会では暑さをしのぐ清涼剤として、象鼻杯やハスの香り茶で喉を潤してください。

※象鼻杯はアルコールです。ドライバーはご遠慮ください

熱帯睡蓮展

園内で栽培した熱帯睡蓮を展示

■期間 7月9日(土)～8月31日(水)

その他のイベント

■定員 各回20人

■申込 電話で水郷佐原水生植物園

◇花菖蒲植替え講習会 7月9日(土)・10日(日) 10時～、13時～

◇棕櫚の葉でバッタづくり 7月31日(日) 10時～、13時～

◇竹細工教室 8月7日(日) 10時～、13時～

▶測量道具を用いて地図作りを指導



▶そらい半てんは町並み案内の目印



町の良さ伝える毎日

NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 理事長

佐藤 けんたろう
佐藤 健太良さん
(佐原イ)

プロフィール

家業の金物店を経営する傍ら、考える会の理事長として、同会が指定管理者となっている佐原町並み交流館で観光案内などにあたる。NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会は、佐原の町並みを保存しようと平成3年に任意団体として発足し、平成16年にNPO法人を取得。会は観光案内ボランティアガイドほか骨董市の開催や建物公開、ボンネットバスの運行など多彩な事業を展開。会員数約90人。

今年4月に日本遺産に認定された北総の町並み群。その舞台の一つ、佐原の町並みの保存活動を続ける団体の代表に話を伺いました。日本遺産認定の報を受け、佐原は江戸の景観や文化がよく分かるまち。観光の資産として大変大きなものを授かったと思います。子どもの頃の佐原はー

古い町並みを残していこうという考え方に触れたのがきっかけです。それから佐原を語り合う場などで商店会以外の人も会うようになり、平成3年の考える会立ち上げに参加。皆で勉強しながら建物調査を始めました。保存に向けた合意形成のため、市の職員と一緒にし、景観条例の制定、そして平成8年の重伝建の選定に一役買ったのが考える会だっただけです。先輩からは「任んでよし、訪れてよし」のまちづくりをしようと言われてきました。

記憶に残る活動はー 小野川清掃ですね。平成7年ごろは臭っていました。川底をさらしたらオートバイ、ベンチ、鉄筋入りのコンクリートガラなどが出てきて。保存に反対していた家の奥さんが冷たい飲み物を差し入れてくれた時は感動しました。小野川が汚れていることに、誰もが心を痛めていたんです。今も、町内の方々と一緒に護岸の草取りなどを続けています。震災から5年経ってー

どの家も一度は古い建物を直すかどうかの選択に迫られます。どうしたらこの景観を後世に伝えることができるのか、震災を引き金に、判断に困る場面が多く出てくるようになりました。これからの観光まちづくりを目指すのは、佐原を目的に来る人を増やすことです。そこで始めたのが伊能忠敬がやっていた方法で実測し、地図を作ってもらったツアーです。この町と伊能忠敬を分かってもらい、ファンになって、もう一度来たいと思ってもらえたら最高です。

山田中学校

バスケットボール部(男子)



一戦必勝!

男子バスケットボール部は、現在、3年生8人、2年生8人、1年生2人の18人で活動しています。先日の県大会予選では優勝し、県大会出場を決めました。部員一丸となって、7月の総体予選、県総体を勝ち抜き、関東大会出場を目標に全力を尽くします。



▲県選抜に選ばれた菅井大雅さん

ブカツー信



vol.28
中学校部活紹介



心・技・体を磨く

私たちは7人の1年生が入部し、部員19人で日々の練習に励んでいます。「心・技・体」それぞれを磨かなければ、目標を達成させることはできません。県選手権大会出場を目指し、チーム一丸となって頑張ります!



▲一つ一つのプレーを大切に

小見川中学校

バスケットボール部(女子)

かとり Katorist

平成28年(2016)7月1日号 No.247

編集 香取市役所総務企画部秘書広報課
〒287-8501 千葉県香取市佐原口2127
TEL 0478-54-1111 FAX 0478-52-4566
http://www.city.katori.lg.jp

人口と世帯

6月1日現在 (前月比)
計/79,475人 (- 64)
男/39,432人 (- 20)
女/40,043人 (- 44)
世帯数/
30,668世帯 (+ 13)

少しずつでもー。今日からまた、市民の皆さんのための広報紙を作るために、試行錯誤してまいります。(N)

編集後記

市町村職員中央研修所(千葉市)で行われた研修に参加しました。実際の記事作成に関係する写真技術などを習得することはもちろん、北海道から沖縄まで全国各地から集まった広報担当者たちの意見交換も大切な目的でした。どの自治体も「広報紙をどうやったら読んでもらえるか、記事をもっとわかりやすくできないか」と試行錯誤している、同じ広報担当同士、現場で感じた率直な意見を交わせたことが、とてもうれしかったです。